

# == 直 播 情 報 (第 4 号) ==

令和元年 6 月 28 日  
農業技術課 広域普及指導センター

## 1 湛水土中直播栽培（カルパー）

### (1) 生育状況

平年に比べ、草丈は短く、茎数はかなり多く、葉齢、葉色は並みとなっている。  
葉齢を揃えて比較すると、平年に比べて、草丈は短く、茎数はかなり多く、葉色は並みとなっている。

表 1 6 月 28 日現在の生育状況（湛水土中直播栽培コシヒカリ）

年次	播種日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉齢 (L)	葉色	幼穂形成期 (月/日)
R元	5/2	42.8	701	9.3	4.2	-
H30	5/1	42.8	574	9.3	4.1	7/15
平年	5/2	48.2	583	9.4	4.2	7/16
前年比・差	1	100	122	0.0	0.1	
平年比・差	0	89	120	-0.1	0.0	

注) 平年はH21～30年の平均値

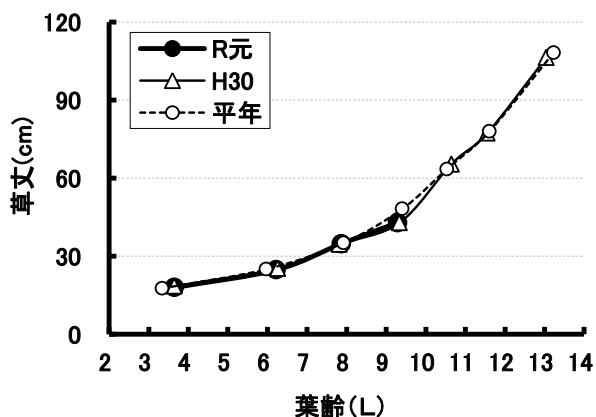


図 1 草丈の推移（湛水土中直播コシヒカリ）

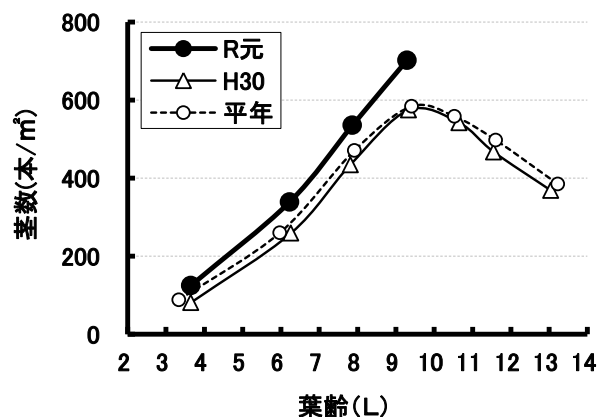


図 2 茎数の推移（湛水土中直播コシヒカリ）

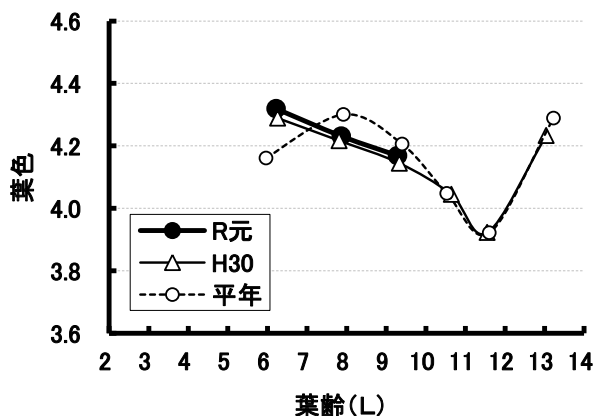


図 3 葉色の推移（湛水土中直播コシヒカリ）

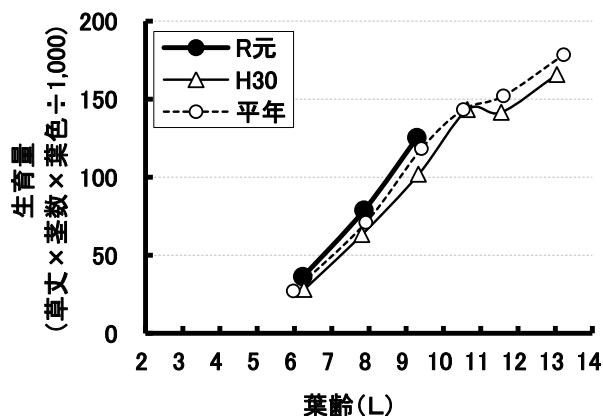


図 4 生育量の推移（湛水土中直播コシヒカリ）

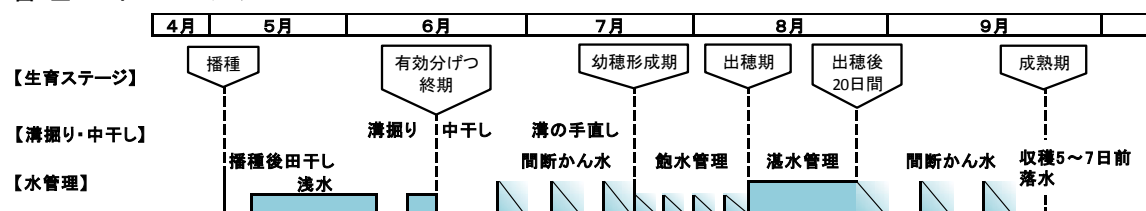
## (2) 当面の技術対策

- ・平年に比べて茎数が多くなっていることから、幼穂形成期まで落水期間が長めの間断かん水を実施する。
- ・幼穂形成期頃までに足跡の深さ 3cm 程度の土壌硬度に誘導する。

### ① 適正な水管理

- ・平年に比べて茎数が多くなっていることから、過剰籾数を防ぐため、幼穂形成期まで落水期間が長めの間断かん水を実施する。
- ・間断かん水により幼穂形成期頃までに足跡の深さ 3 cm 程度の土壌硬度に誘導する。
- ・幼穂形成期以降は、稲体の水分要求量が高まるので、飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態を維持）を行う。

#### <水管理のイメージ>



### ② 病虫害防除を徹底

#### <カメムシ類>

- ・畔畔等のイネ科雑草の穂は、カメムシ類の好適なエサとなるので、穂が出ないように草刈りを徹底し、カメムシ類の発生量を少なくする。

※ 草刈り運動期間：7月1日～10日 一斉草刈り日：7月6日～7日

- ・本田内のノビエやホタルイも、カメムシによる被害を助長するので、除草に努める。
- ・麦あとほ場において、後作までに日数を要する場合は、雑草の穂が出ないように草刈りや耕起等により管理する。

<いもち病> ※平年の葉いもちの初発確認日：7月6日 (H30：未確認)

- ・県内では、6月22、24、25日にいもち病の感染好適条件がみられたので、常発地を中心に巡回し、葉いもちの発生がみられたら直ちに防除する。

BLASTAM 情報（葉いもち予測システム）HP の URL

[http://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/link\\_flat.phtml?TGenre\\_ID=314&t=pdf2](http://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/link_flat.phtml?TGenre_ID=314&t=pdf2)

<紋枯病> ※平年の初発確認日：6月23日 (R元：6月26日)

- ・前年多発したほ場や「てんこもり」では、粒剤の場合は出穂3～4週間前に、粉剤、液剤等の場合は品種毎の薬剤散布適期に（表2参照）、確実に防除を行う。
- ・その他のほ場では、要防除水準を参考にし、必要に応じて適期に防除を行う。

表2 紋枯病の薬剤散布適期と要防除基準

品 種	薬剤散布適期 (防除要否判定時期)	要防除水準 (発病株率)
てんたかく	出穂14日前頃	5%
コシヒカリ	出穂10日前頃	15%
てんこもり	出穂7日前頃	15%※

※「てんこもり」は基本防除とする。発病株率は追加防除の目安（暫定値）。

#### <白葉枯病>

- ・雨により浸水や冠水した場合、白葉枯病が発生しやすくなる。常発地では、オリゼメート1キロ粒剤等を出穂3～4週間前に散布する。

## 2 湛水表面直播栽培（鉄）

### (1) 生育状況

近年に比べ、草丈、葉齢、葉色は並み、茎数は多くなっている。

葉齢を揃えて比較すると、近年に比べて、草丈、葉色は並み、茎数は多くなっている。

表3 6月28日現在の生育状況（湛水表面直播栽培コシヒカリ）

年次	播種日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉齢 (L)	葉色	幼穂形成期 (月/日)
R元	4/30	42.6	681	9.7	4.2	-
H30	4/30	39.8	656	9.4	4.2	7/17
近年	5/1	43.7	614	9.7	4.3	7/18
前年比・差	0	107	104	0.3	0.0	
近年比・差	-1	98	111	0.0	-0.1	

注) 近年はH26～30年の平均値

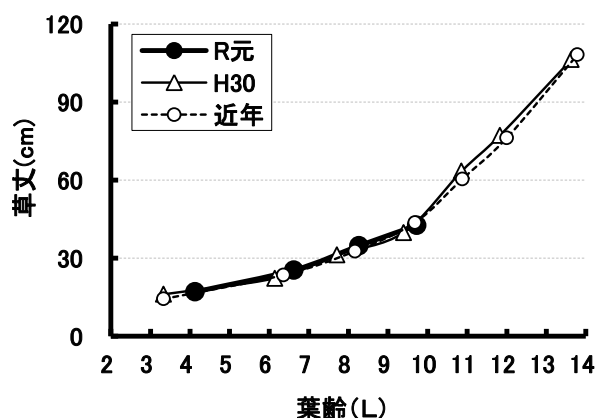


図5 草丈の推移（湛水表面直播コシヒカリ）

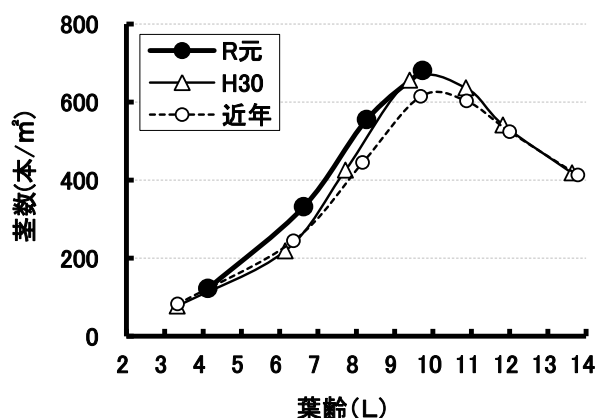


図6 茎数の推移（湛水表面直播コシヒカリ）

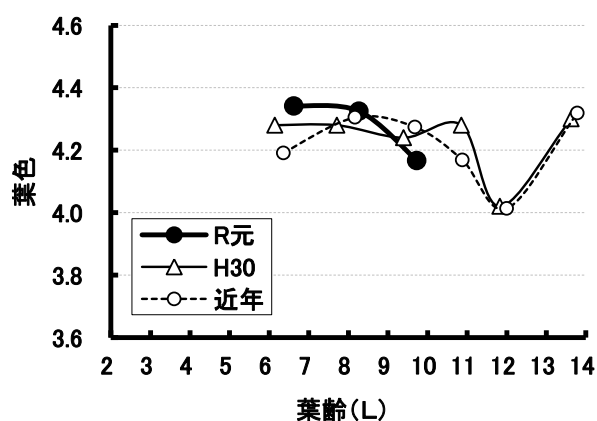


図7 葉色の推移（湛水表面直播コシヒカリ）

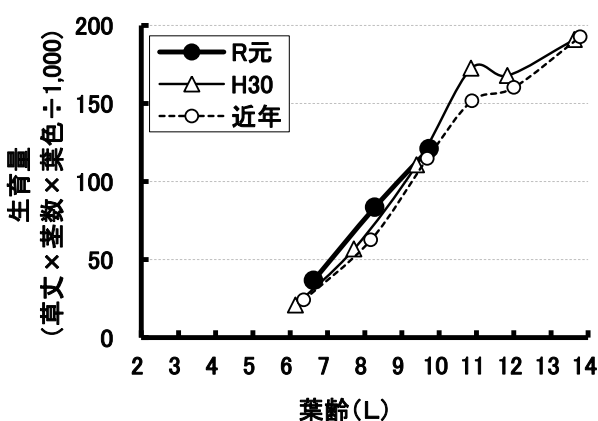


図8 生育量の推移（湛水表面直播コシヒカリ）

### (2) 当面の技術対策

水管理および病虫害防除は、湛水土中直播栽培に準じる。

### 3 乾田 V 溝直播栽培

#### (1) 生育状況

平年に比べ、草丈はやや短く、茎数はやや多く、葉色はやや淡く、葉齢は 0.6 葉多くなっている。

葉齢を揃えて比較すると、平年に比べて、草丈はやや短く、茎数は多く、葉色は淡くなっている。

表 4 6月28日現在の生育状況（乾田V溝直播栽培コシヒカリ）

年次	播種日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉齢 (L)	葉色	幼穂形成期 (月/日)
R元	4/19	40.6	615	8.9	4.0	-
H30	4/19	42.8	608	8.7	4.1	7/17
平年	4/22	43.2	564	8.3	4.2	7/20
前年比・差	0	95	101	0.2	-0.1	
平年比・差	-3	94	109	0.6	-0.2	

注) 平年はH21～30年の平均値

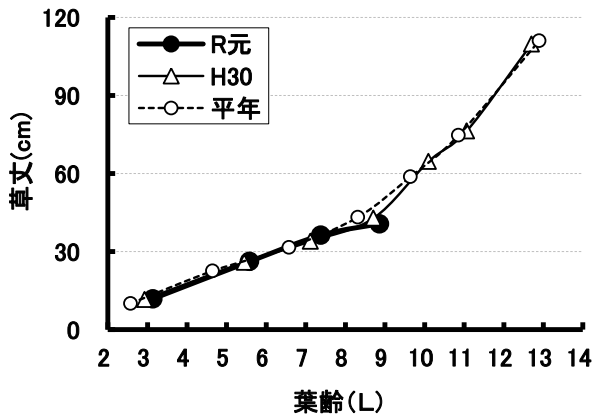


図 9 草丈の推移（乾田 V 溝直播コシヒカリ）

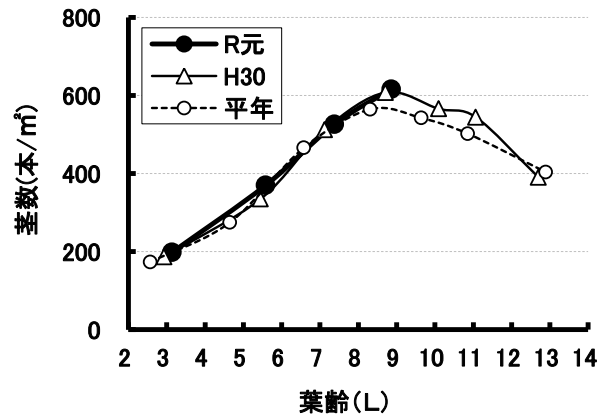


図 10 茎数の推移（乾田 V 溝直播コシヒカリ）

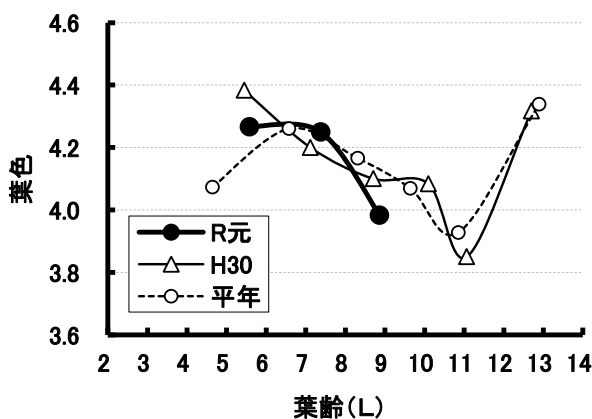


図 11 葉色の推移（乾田 V 溝直播コシヒカリ）

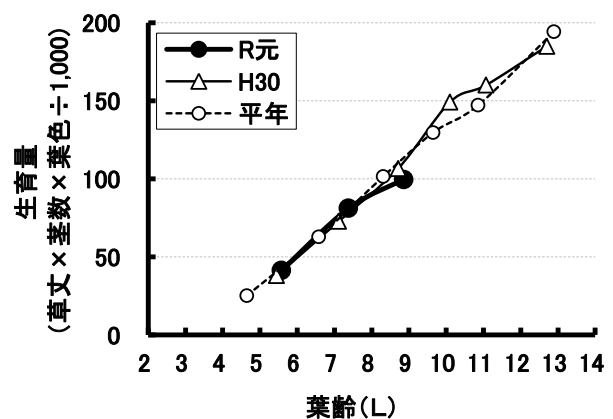


図 12 生育量の推移（乾田 V 溝直播コシヒカリ）

#### (2) 当面の技術対策

今後、成熟期の 1 週間程度前まで、深水管理（水深 10cm 程度）を徹底する。

登熟向上のため、前年の代掻き時にカリを施用していない場合は、カリ成分で 3～4 kg/10a を目安に施用する。

病虫害防除は、湛水土中直播栽培に準じる。